（様式－3）

送電線工事災害　再発防止対策書

北海道支部

発生日時	令和 4年 12月 7日（水曜日）　13時50分頃							天候	くもり	
災害の程度	死亡　名	負傷　1名	職種　基礎作業員			年令　69才			経験年数 52年	
工事の種類	調査測量	運搬	伐採	仮設	基礎	組立	足場	架線	撤去	その他
災害の種類	墜落 転落	感電	崩壊	倒壊	はさまれ 巻き込まれ	物の飛来 落下	切れ・こすれ		その他	
原因	作業準備 の不良	作業方法 の不良	工具・防具 の不良	電気工作物 の不良	作業者の 過失	共同作業者 の過失	その他			
設備	電圧　66kV		2回線	電線 160 mm2　1導体		地線　70mm2　1条 地線　mm2　条				

災害の状況

【件　名】

作業箇所付近に堆積していた敷鉄板が崩れ、左足首が敷鉄板と地面の間に挟まれて負傷

【作業内容】

バックホウのアタッチメント交換作業（掘削バケット→ジャイアントブレーカー）

【発生状況】

作業員Ａ（被災者）他３名は、工事敷地内において、0.4㎥バックホウのアタッチメント交換作業（バックホウのバケットをブレーカに交換する作業）に従事していたところ、作業箇所付近に堆積していた敷鉄板（重量1.6t／枚、積み重ね枚数46枚、高さ約1.0m）が突如崩れ作業員Ａ(被災者)は退避しようとしたが間に合わず、左足首内側に当たった衝撃で転倒した後、敷鉄板と地面の間に左足首を挟まれ受傷した。

【被災程度】

左足関節外果開放骨折、前脛骨動脈断裂、長母指伸筋腱断裂

(全治3ケ月の見込み)

【防・保護具の使用状況】

安全帽・作業服・長靴・皮手袋

原因及び対策

【発生原因】

＜敷鉄板集積作業に対する計画の曖昧さ＞

・敷鉄板の集積作業は過去の災害発生状況の反省から、重機作業箇所周囲へ他の作業員（玉掛者・合図者）の配置が不要となるバックホウのバケットを用いた集積方法にて実施していたが、バケットを使用した敷鉄板集積に対する具体的な作業手順、作業計画が無かったため 、重機オペレーターは敷鉄板の傾斜や重心のズレを確認しないまま積み重ねを実施した。

・作業班長は重機オペレーターに対して、敷鉄板２枚を土台にして積み重ねるよう口頭で指示していたが、重機オベレーターは、凍結により地盤が安定していると安易に判断し、作業班長に変更内容を報告しないまま土台の鋼板を省略して積み重ねたところ敷鉄板が崩れた。

＜敷鉄板崩れに対する危険意識の欠如＞

・重機オペレーターは、敷鉄板の積み重ね終了後、敷鉄板の傾斜や重心のズレを他作業員に指摘されたが、敷鉄板が崩れる想定をしておらず、別作業を優先し敷鉄板の修正作業を後回しにした。

【再発防止対策】

・敷鉄板の設置、移動、撤去作業時は、あらかじめ元請会社にて作業手順を定めた標準施工計画書を作成する。

・敷鉄板の集積を行う場合は、集積箇所の広さ、地形の傾斜、地盤の状態、敷鉄板の大きさ、重量から作成された標準施工計画に基づき、敷鉄板の傾斜や重心のズレを正面と側面から確認し、必要に応じて修正する。

・作業班長は敷鉄板の積み重ね作業を行う際は、重機作業計画書の確認、標準施工計画書により作業員全員に作業手順を指示する。

・作業員は重機作業計画書で決めた作業内容を変更する場合には、作業班長に変更内容を相談する。

・管理スタッフは敷鉄板の作業がある場合、乗り込み教育時に作業員全員に対して今回の災害事例および標準施工計画書により、敷鉄板崩れに対する危険意識の醸成を図り再発防止対策を徹底する。

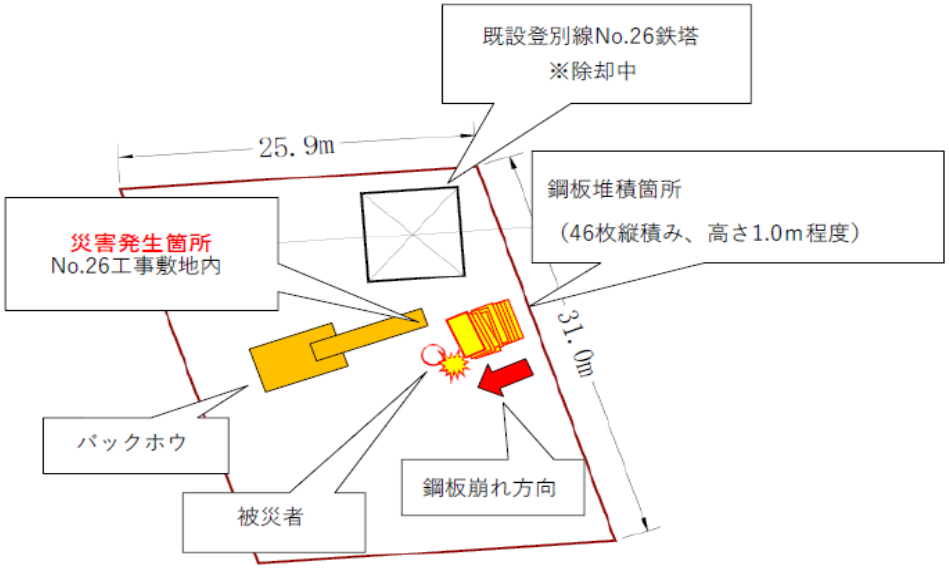
（注）1.　「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし、「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に〇印を付ける。

2.　災害状況の説明と共になるべく図面を添付すること（様式-2）。特に感電の場合は支持物、電線の離隔距離その他寸法を記入する。

（様式－2）

災　害　概　要　図

＜ 災 害 状 況　図 ＞



＜ 災害発生概要図 ＞

＜ 受　傷　箇　所 ＞